

駅前展示「生活福祉を考える衣食住展」

家政科生活福祉専攻

田 岡 洋 子

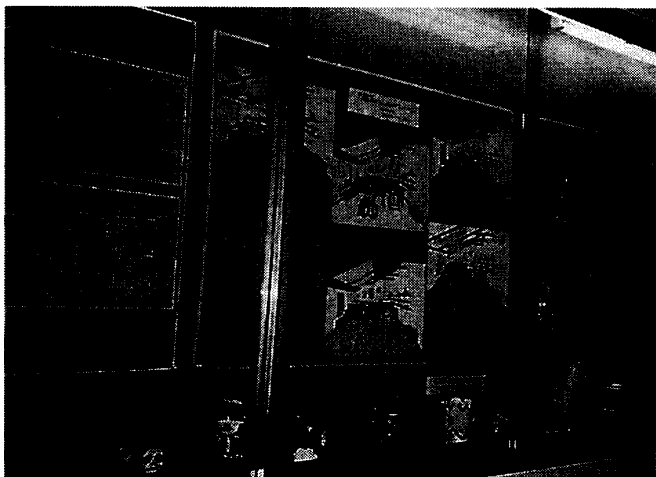
昭和59年福知山駅で、それまでには気付かなかった構内での展示に「この場所を拝借して、学生の作品を展示すれば、高校生や市民の方々に列車の待ち時間を活用して見ていただけるのでは……」という想いがし、観光案内所で聞き、すぐ、市役所の地域振興課の大槻伸氏に会い、熱心をお願いをした。その後翌年秋に1ヶ月間、無料で拝借できることになった。市役所・JR・市民との会議には河口三千子先生にご一緒していただき、地元の名士の攻撃（地元高校の元教員からみるとたいへんな宣伝効果のある場を一学校の参加は許さないとの意見）に耐え、大学という特別枠での使用許可を得た。

それから15年、デザイン系の作品を展示し、

秋になると短大の展示があるというファンや卒業生の声に支えられ、生活福祉系になっても檀先生との連携のお陰で、「生活福祉を考える衣食住展」を平成12年10月16日（月）～11月15日



（水）に実施した。この時期に決めたのも入学試験や大学祭などを配慮した結果である。いつからか「市民の美術館」という看板があげられ、学生が一生懸命制作したものを出来るだけ多く展示することで学生の張り合いにつながると期間中数回の展示換えをしている。展示は学生にまかせているが「見ごたえのある作品」との非常勤の先生の批評にうれしく、見ていただいたお礼を述べた。



「高齢者や障害者の着脱を容易にする改良例と普段着・寝間着の提案」ということで、高齢者や障害を持っておられる方々に対して、おしゃれで体にやさしい普段着や寝間着を考え、市販されているものをリフォームしたり、着脱をしやすいようにグループで考え、制作したものを展示した。チョット手を加えることで市販のものにない素晴らしい衣服などが出来、車いすでの雨の日お出かけ用カッパをメーカーからの生地提供で実現し、着装写真を加えて説明した。制作者名や各グループの工夫点、その考察なども明記した。施設実習後の制作であるために市販されている介助具より現場を考慮したものが多く、学校への問い合わせもある。介護福祉士として人権を考え、実行出来ていない理想などもしっかり身に付けて卒業し、将来的に貢献できる人材養成の一過程としたい。

癒しのケアとして、一つの試みとして「生活福祉の成立と生活リハ・レク」をテーマに特別授業をし、介護の一つの目的である生活自立への支援のための身体と心のリハビリを考え、レクリエーションやリハビリなどをよくすることは予防介護につながる。また、近代心理学では心の3側面のバランスがとれていることが望まれ、その側面は①知（知的）②情（情緒的）③意（意欲的）で、最近の傾向としては右脳より左脳活動の多い人が多く、より右脳を動かし楽しい生活をしたい。感動のある生活をし右脳をよく使うにはカラーセラピーやファッションセラピーなど心をうごかす色彩の力を利用して「ハート&カラー」色による表現、93色の色紙からどんな色を使うか？ 自分の好きな色で紙を埋め尽くすことで、自らの心を表現し、心をリラックスさせる効果がある。その演習作品の展示と演習後の感想として「貼っている時や切っている時、すごく楽しかった。心が和やかになった気分！」「久々に燃えた」「ワクワクする感じ。隣に合わせる色はちゃんと合うように。楽しい感じ」など。その他に靴のデザイン画や美味しいと感じるお料理の配色分析例などを展示した。

